

森林 病害虫

樹木内を見抜き良質材供給をめざす !

～樹幹内の材質劣化状況の把握と対策～

研究の背景・目的

スギ・ヒノキなどの人工林は収穫適期を迎えつつありますが、病虫獣害による材の変色や腐朽など樹幹内の材質劣化が目立つようになってきています。これら材質劣化は木材として利用する上で、歩留まりの低下・作業時間のロスなど伐採から製材に至るまでのコストに悪影響を及ぼすことになります。

そこで、この研究では伐採現場での被害(材質劣化)木の簡易な造材方法あるいは仕分け方法を開発し、収穫時の経済的損失を最小限に抑え、用途に応じた質の良い木材の供給をめざします。



写真1 漏脂病のヒノキ



写真2 スギカミキリによる被害

研究方法

- ① 各種病虫獣害の原因別に変色・腐朽の被害実態を詳細に調査します。
- ② 変色・腐朽の拡大様式を中～長期的に予測します。
- ③ 以上の知見に基づいて伐採現場での被害木の簡易な造材方法あるいは仕分け方法を検討します。

研究の状況

スギカミキリ加害林20箇所において、剥皮の形状、面積、経過年数と変色・腐朽の進展関係について調査しています。

製材業者への聞き取り調査を実施します。

過去の付傷木について割材し、変色と腐朽の発生範囲、過程、進展要因について検討します。

研究成果の活用場面・その他

病虫獣害の原因ごとに被害林樹木内の材質劣化状況を判断することが可能となり、伐採現場での造材に際して、製材した時に最も商品価値が高くなる採材が可能となります。また、劣化材部が早期に取り除かれることにより、造材から製材にいたる各行程において生産コストの低減が可能になります。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3823

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 陶山 大志(すやま ひろし)

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 針葉樹人工林における材質劣化等リスク管理技術の開発(研究期間:H23)